

# 自然葬（散骨）に関する、 新規条例の制定について



質問者  
唐澤 一代 議員



深刻な少子化や継承者のいない無縁墳墓、経済的理由からお墓への埋蔵という葬法への敬遠等により、自然葬（散骨）という葬法があることも広く認識され増加傾向にある。そこで、以下のことについてお伺いします。

(1) 死者の尊厳を目的とする、もしくは、散骨地の周辺住民との間で生じうるトラブルを未然に防ぐ目的として、町独自の条例という形で散骨場所やマナー等を制定する必要があると考えるが、町としてのお考えは。

(2) 条例等を制定される際には、愛犬との共生が癒しと賑わいを創出する里づくりを掲げている町

として、ペットの散骨に關しても併せて制定するなどの取組みも必要と考えるが、町としてのお考えは。



## 時代に沿った 対応について 研究を進める

回答（町長）

(1) 散骨の基準については、厚生労働省のホームページで「散骨に関するガイドライン（散骨事業者向け）」が示されている。



野原を駆け回る愛犬

現在、松田町には、同様の条例やガイドラインがないので、社会の変動を見据え、今後、時代に沿った対応について研究を進めていく。

(2) ペットも含めた散骨場の経営に関する規制をする条例を制定している自治体はある。愛するペットが亡くなった後、飼い主が火葬をし散骨をするという選択が、今後、増えてくる可能性も考えられる。

今後ペットについても、条例やガイドラインを制定する必要性も含めて検討する。

# プラごみゼロの町をめざして



質問者  
平野 由里子 議員



今年の2月、県西2市8町の首長がプラごみゼロ宣言をしました。県でも2018年、鎌倉の海岸にシロナガスクジラの赤ちゃんが打ち上げられたことをきっかけに、プラごみゼロ宣言をしています。どちらも、クリーン活動、使い捨てプラの削減、教育・啓発を謳っています。

また町はSDGs 未来都市としても努力されていますが、一層の取り組みが求められていると思います。そこでお聞きします。

(1) 町内の公的施設で使用されている人工芝シートプラスチック片の流出防止策はどのようにされていますか。



## プラごみ流出防止の 徹底と意識向上に 努める

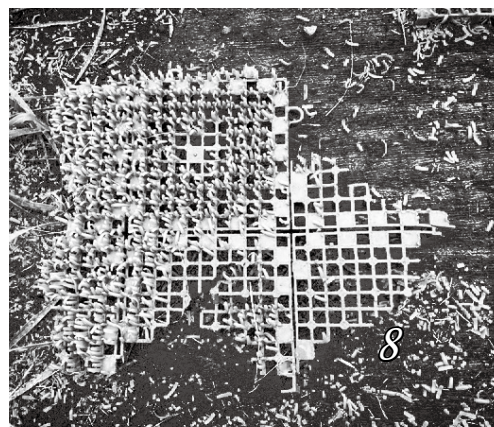
回答（町長）

(1) 公園や公共施設で人工芝や土のう、ブルーシート等を使用しているが劣化するとプラスチック片が流出する恐れがあるので、点検を行い適宜交換を行なう。今後、プラ

(2) 今後さらに人工芝の設置を検討されていますか。

(3) プラごみについての教育や啓発はどのように実施していますか。

劣化した人工芝



スチック製品の利用に関するガイドライン等を定める。

(2) 寄みやま運動広場と松田中学校グラウンドを検討しているが未確定。環境に配慮した製品もあるので情報を集め、環境面だけでなく安全面、費用、更新頻度等も検討し、町民の声を聞きながら進める。

(3) 廃プラスチックに関する講座を開催した事もあるが、今後はプラスチック汚染問題を取り上げた映画の上映会や、2市8町共同での環境教室の開催等を考えている。町民の環境に対する危機意識を高めるための啓発に取り組む。